

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	株式会社長谷エコーポレーション (仮称)彦根駅東口計画新築工事
受 賞 テーマ	作業所一丸でリサイクル率80%以上に挑戦した3R活動の推進

【取組概要】

当作業所はRC造地上12階建、共同住宅66戸、延床面積5,555.95㎡の工事となり、着工当初より作業所の所長方針である『リサイクル率80%以上』を目標に、職長会を主導に全職方と元請所員が一体となり廃棄物の分別活動(17品目)に取り組み、3R活動を推進した結果、混合廃棄物原単位0.56kg/㎡、リサイクル率98.28%(当社ISOで7.0kg/㎡、R率は80%以上が目標でそれを大きくクリア)を達成した。

(1) Reduce : 型枠廃材の発生抑制

躯体工事では、内スラブならびに廊下・バルコニーの鼻先部、手すりにPCa工法、また非耐力壁にALC工法を採用することにより型枠廃材の発生を抑制した。木製型枠の使用削減率として、樹脂型枠利用、PC化採用により約46.8%の型枠材の使用削減を行った。また、型枠廃材の発生抑制によって廃棄物収集運搬車両台数も減少しCO₂排出量の削減にもつながっている。

(2) Reuse : ①建設発生土の現場内利用

土工事において、基礎掘削時に発生する土砂783m³を先行させた立駐躯体ピット部にストック、場外搬出土砂を削減。本体基礎の埋め戻しに必要な土砂1,101m³を100%場内利用で行った。又、これにより場外土砂搬出ダンプ約200台分、約6.2t-CO₂の排出量削減となった。

(3) Reuse : ②木製建具養生材の再使用

内装工事にて木製建具枠の傷防止用の養生材に建具枠専用のプラスチック養生カバーを採用。プラスチック性のため耐久性がよく、建具メーカーにて使用後の回収を行い次現場用に再利用が可能(4~5回の転用利用が可能)。当作業所において建具枠約396か所分の養生カバーを再使用実施した。

【評価ポイント】

- ・17品目への分別徹底で、建設混廃の発生原単位0.56kg/m²を達成(通常は10kg/m²程度)
- ・木製型枠の47%発生抑制
- ・土砂の100%現場内利用
- ・リサイクル率98%



混合廃棄物の分別状況確認



木製建具枠養生(規格形状用)